

看護部業務担当この1年

看護部業務担当参事 岩井照代

業務一般・事故防止・オーダーリングを担当しました。

1 オーダリング

4月に1次稼働で処方・検査・移動・給食・再診予約、9月には、2次稼働で放射線・内視鏡・生理検査・リハビリ・手術申し込み・看護支援システムを開始しました。看護支援システムは、情報の統一・看護業務の整理と記録の標準化に効果がありました。

オーダーリングの事務局の一員として、佐古副院長のバックアップの下、全病院的作業に参加しました。院内では職種、院外では業者との認識の違いがあり、調整をする上で、いろいろな考え方が有ることを知る良い機会となりました。達成感を味わうことが出来きこの役目を与えられたことに感謝しました。オーダーリング事務局の若いメンバーとの話し合いも有意義な時間でした。

2 事故防止

なかなか事故防止に対する認識を高めることが出来なく、新人研修・中途採用者研修の中でも時間をいただいて重要性を理解してもらいました。事故防止看護部会の中でもレベルの高い報告書の減少を目標とし、新聞の発行・自己チェックリストの作成と実施・9月からは月2回の巡視を開始し意識を高めています。年々報告書の枚数は増加の傾向にありますが、部署ごとの件数にはまだばらつきがあり、またハインリッヒの法則のようなデータにはなっていません。部署ごとの報告書に対する認識の違いがあると考えます。「レベル0」(実施せずに解除できたもの)は平成13年から、ヒヤリ・ハット報告書を変更し、レベル0が報告され、H13年88枚、H14年211枚と増加の方向にあり、多数の防止できた情報をいただきました。報告書の増加に伴い「レベル1」(実施したが患者さんに影響がなかったもの)はH13年

レベル	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	総数
H13年	88 (31%)	156 (81%)	36 (19%)	1 (0.1%)	193
H14年	211 (41%)	294 (96%)	8 (3%)	3 (0.1%)	305

81%、H14年96%と増加しているが「レベル2・レベル3」(レベル2は実施し軽い後遺症が残ったもの・レベル3は後遺症が残ったもの)は、H13年19.1%、H14年3.1%と減少しています。

H14年の報告書では、病棟別の種類別件数は科の特徴が出ています。多い順として療養上の世話は転倒・転落が多く、高齢化による影響が大きいと考えます。2番目に多いチューブ類の管理も、高齢化により入院時不穏状態となる患者さんが多く、自己抜去が41%を占めています。3番目に多い与薬・処方では、もっとも注意したい患者間違えが14%、うちレベル0で未然に防げたものが5%あり、内容としては他の看護師が気づいたケースや、患者さんが教えてくれたケース等もあった。薬品間違えが8%のうちレベル0が3%であり、施行時の複数確認や、施行前の自己確認で気づいている。オーダーリング開始でのオーダーミスは1件と少ないのは、研修の時間を多く実施した結果と思われる。

レベル0は、マニュアルの実施により防げた結果である。反対にレベル1からは、マニュアルを実施していない為に発生している。事故防止看護部会でも、新聞等でアンケートから分析し、対策をフィードバックしています。看護部長の助言により、これを効果的にするためには、各職場長の管理が重要であることから、看護科長会議でも1週間の報告書・ヒヤリハットの内容を提示し対策をフィードバックしています。今後も皆様の協力を得て、職員と患者さんを守ることに努力します。

H14年事故報告書・ヒヤリハット報告書から

部署名	オーダーリング関係	チューブ類の管理	機械・機器	検査	治療・処置	手術	食事・栄養	調剤・製剤等	与薬・処方	療養上の世話	総計
2階西	1	11	1	16	8	3	3		39	30	112
3階西		1	1	2						6	13
3階東		50		2	2		2	3	9	29	97
4階西		3	2	1	1				14	20	41
4階東		6		2			1		8	9	26
5階西		24	1		2	1	4	1	15	49	98
外来		35	20	8	2				9		75
手術室		1	1	1						2	5
第1		2		1					8	18	29
第2		2	2		1				9	12	26
中材室			3								3
総計	1	135	31	33	16	4	10	4	119	170	525